

はじめに

本書は、平成 21 (2009) 年度～平成 25 (2013) 年度科学研究費補助金基盤研究(B)「日本語諸方言の文法を総合的に記述する『全国方言文法辞典』の作成とウェブ版の構築」(課題番号: 21320089・研究代表者: 日高水穂)の研究成果報告書である。以下に本研究の概要を示す。

目的と経緯

本研究は、日本語諸方言の文法を総合的に記述する『全国方言文法辞典』の編纂を目的として、要地方言を統一的に調査するための共通調査項目を策定し、各地方言(標準語を含む)の文法的側面に関する対照研究を行うものである。本研究期間では、特に、活用体系の調査・記述を行った。

方言文法の記述的研究において、活用体系の記述はもっとも蓄積のある分野の一つである。しかしながら、個別方言の詳細な活用体系の記述が同じ枠組みで行われているとは限らず、琉球方言を含めた日本語諸方言の活用体系を比較・対照する俯瞰的な研究は、まだ十分な成熟を見ていない段階にある。

本書は、日本語文法学会第 12 回大会(2011 年 12 月 4 日、東京外国語大学)において、「日本語動詞活用の歴史と地理的変異の総合的理解」と題して行ったパネルセッション(発表者: 小柳智一・小西いずみ・仲原穰、司会: 日高水穂)で検討した記述の枠組みにそって、要地方言の活用体系を記述するものである。日本語諸方言の対照研究のためには、個別方言においてのみ整合性のある記述枠では有効なものとは言えない。本書で提案する活用体系の記述枠は、「地理的変異の総体としての日本語」を俯瞰し、個別方言の諸現象を地理的分布相に位置づけることによって理解するためのものである。なお、本書の編集は、小西、日高が中心となって行った。

本研究の母体である方言文法研究会は、2001 年に以下の方針のもとに活動を開始した。

- ・方言の文法に関する記述をより精密なものにする。
- ・全国方言の文法形式、文法現象をできる限り網羅する。
- ・言語の対照研究に興味を持つ人全般に向けて情報発信する。

本研究会の最終目標は、上にも述べたように、『全国方言文法辞典』を成すことである。一方、本研究会の研究成果は、本書のような冊子形態のものだけでなく、ウェブページにおいて音声を付したデータとともに公開するなど、成果報告の形態自体を将来に生かせるように工夫している。以下のページをご覧ください。

<http://hougen.sakura.ne.jp/>

最終的な『全国方言文法辞典』を成すためには、より広く諸方言の情報を収集していく必要がある。本書刊行の目的の一つは、現行メンバーを超えて、本書で示した記述枠を活用していただき、情報提供のご協力を仰ぐことにある。今後とも多くのご教示をいただきながら、本研究を進めていきたい。

研究組織

- 研究代表者： 日高 水穂（関西大学 文学部・教授）
研究分担者： 小西いずみ（広島大学大学院 教育学研究科・准教授）
竹田 晃子（国立国語研究所 時空間変異研究系・特任助教）
林 良雄（秋田大学 教育文化学部・教授）
船木 礼子（神戸女子大学 文学部・准教授）
連携研究者： 青木 博史（九州大学大学院 人文科学研究院・准教授）
大西拓一郎（国立国語研究所 時空間変異研究系・教授）
小柳 智一（聖心女子大学 文学部・准教授）
高木 千恵（大阪大学大学院 文学研究科・准教授）
仲原 穰（琉球大学 大学教育センター・非常勤講師）
中本 謙（琉球大学 教育学部・准教授）
前田 直子（学習院大学 文学部・教授）
松丸 真大（滋賀大学 教育学部・准教授）
三井はるみ（国立国語研究所 理論・構造研究系・助教）
山田 敏弘（岐阜大学 教育学部・教授）
吉田 雅子（実践女子大学 文学部・非常勤講師）
研究協力者： 酒井 雅史（大阪大学大学院生）
野間 純平（大阪大学大学院生 / 日本学術振興会特別研究員）
平塚 雄亮（西南学院大学 留学生別科・非常勤講師）
森 勇太（関西大学 文学部・助教）

交付決定額（配分額）

- 平成 21(2009)年度 4420 千円（直接経費：3400 千円、間接経費：1020 千円）
平成 22(2010)年度 3380 千円（直接経費：2600 千円、間接経費：780 千円）
平成 23(2011)年度 3380 千円（直接経費：2600 千円、間接経費：780 千円）
平成 24(2012)年度 3380 千円（直接経費：2600 千円、間接経費：780 千円）
平成 25(2013)年度 4160 千円（直接経費：3200 千円、間接経費：960 千円）
総額：18720 千円

2014年3月

日高 水穂